

◎景気ウォッチャー調査[2017年12月]

2017年12月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を1.8ポイント上回る54.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなっている」「やや悪くなっている」の回答の割合が減少し、「苦戦していた衣料品、特に婦人服が好調に動いており、館全体でも売上、来客数共に前年をクリアしている。秋以降、明らかに客の購買動向は向上している。」(百貨店)、等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を3.4ポイント上回る53.2となった。

企業動向関連は、「増産傾向にあるので景気が上向いている。」(輸送用機械器具製造業)等の理由から、「良くなっている」の回答の割合が増加したものの、「年末用の商品受注量が前年より10%ほど減少しており、それ以外の商品も厳しい状況である。」(食料品製造業)、「7月頃から新設住宅着工戸数が4か月続けて減少しており、低金利政策が一巡して景気が低迷してきている。」(木材木製品製造業)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合がそれ以上に増加したため、前月を0.6ポイント下回る54.4となった。

雇用関連は、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「求職者の確保が難しく、企業からの受注残が過去最高まで積み上がっている。また、求職者を募集するための広告費も急激に上昇しており、採算は悪化している。」

(人材派遣会社)、等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.3ポイント下回る58.8となった。

	12月	11月	前月差
合計	54.0	52.2	1.8
家計動向関連	53.2	49.8	3.4
企業動向関連	54.4	55.0	-0.6
雇用関連 (参考値)	58.8	64.1	-5.3

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を0.7ポイント上回る51.0となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「悪くなる」「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「1月から決算期に入りメンテナンス客と新規客が増え、景気は上向く。」(乗用車販売店)、「12月の忘年会が順調に伸び、今後は合格祝いや卒業、転勤時期となり外食の利用が増えてくる。」(一般レストラン)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.2ポイント上回る49.6となった。

企業動向関連は、「当面主要取引先の増産体制は顕著であり、受注量に応じた増産体制が続く。ただし、中国の環境対策による工場の稼働停止の影響により、特に苛性ソーダの価格が大幅に値上がりしているため、生産にも影響が及ぶ。」(化学工業)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したものの、「海外生産との競争が常にあり、コスト面で非常に厳しい状況が続く。」(その他製造業)等の理由から、「悪くなる」「やや悪くなる」の回答の割合がそれ以上に増加したため、前月を2.8ポイント下回る51.5となった。

雇用関連は、「人手不足の状況が大きく変わることはなく、雇用のマッチングが進みづらい状況が続いていく。」

(人材派遣会社)等の理由から、「変わらない」の回答の割合が増加したものの、「やや良くなる」の回答の割合がそれ以上に減少したため、前月を2.2ポイント下回る60.3となった。

	12月	11月	前月差
合計	51.0	50.3	0.7
家計動向関連	49.6	47.4	2.2
企業動向関連	51.5	54.3	-2.8
雇用関連 (参考値)	60.3	62.5	-2.2